

Japonism Victoria Archives

A touch of west-coast Japanese culture

www.jccovictoria.ca



Archive No.: HID100201
English Title: Ross Bay Cemetery and the Nikkei (Japanese Canadian) Community, Part II
Japanese Title: ロスベイ墓地と日系コミュニティ <Part II>
Author: Vincent A. The editor-in-chief
Issue: *Japonism Victoria*, vol.5 no. 2, February 1, 2010
Publisher: Japanese Canadian Community Organization of Victoria
Location: www.jccovictoria.ca/archives/hid100201b.pdf

HISTORY/ART/HUMANS [第3回]

◆ロスベイ墓地と日系コミュニティ <Part II>

Vincent A. @Japonism Victoria

前回(2009年10月号),ロスベイ墓地の日本人たちの墓の有様(ありよう)にはカナダの日系の歴史が凝縮されていると述べましたが,その日系の歴史について少し詳しくお話ししましょう。

まず年表をざっとご覧いただければと思います。筆者は数冊の書籍からカナダ日系の歴史を知りましたが,この年表はその書籍に書かれている事柄を整理するために筆者が逐次(ちくじ)書き入れて作成したものです。今後も加筆・訂正があるでしょうし,備考にはやや矛盾した記述もあります。歴史の本はそれぞれ独自の歴史観ないし切り口にもとづいて書かれていますので,複数の本の記述をそのまま整理すると矛盾もあり得るでしょう。この年表にはそのような短所もありますが,カナダ日系の歴史の全体像を把握するのには重宝していますので掲載することにしました。

差別・排斥の原点

年表をご覧いただくといくつかの点に気づかれると思います。まず,カナダの日系移民(日本人移民およびその子孫)は太平洋戦争(1941-1945)で強制移動・キャンプ抑留という悲惨な人種差別・排斥を受けましたが,実は日系移民に対する差別や排斥はそれよりもずっと前からあったという点です。日本からの移民は明治20年代(1880年代後半)に本格化しましたが,早くも明治34年(1901年)には日本政府がカナダ向け旅券発行を停止する自主規制を行っています。これは,当時の日系移民のほとんどはBC州に居住しており,州内の日系移民が増えすぎてカナダ人と間に軋轢(あつれき)が生じていましたが,新規移民を自主的に制限して排日運動の拡大を防ぐための策でした。

一般に移民が排斥される要因はいくつかありますが,移民人口の増大が最も大きな要因でしょう。移民(=異民族)が急激に増大すればそれだけで,移住先の住民は自分たちの生活が脅かされるのではという漠然とした不安を抱くでしょうし,また実際に地域住民の就業の機会が移民増大により失われることもあるからです。

カナダは移民を奨励する一方で増えすぎた移民を排斥するという行動矛盾を建国当初よりかかえていました(注1)。カナダ政府による移民排斥の歴史は,日本からの移民が本格化する前の1885年(明治18年)の中国人移民法まで遡(さかのぼ)ります。当時,カナダ太平洋鉄道の建設で大量の中国人労働者がカナダに流入しますが,あまりに増えすぎてカナダ人労働者の職を奪います。この流入数を絞るため中国人ひとり当たり50ドルの人頭税を雇用主(建設業者)に課しますが,中国人労働者は低賃金で働きますので人頭税を払っても安上がりなため,流入数は減りません。最終的にこの人頭税は500ドルまで増額されました。

YEAR	INCIDENCE	REMARKS
1837	天保8年 英国ビクトリア女王即位 (1901まで)	
1849	嘉永2年 英国がフレイザー川流域にBC植民地創設	
1858	安政5年 中国人労働者300人がサンフランシスコからビクトリアに上陸	金鉱山での労働
1859	安政6年 中国人労働者が香港からカナダに到着	
1860	万延元年 1年間に4,000人の中国人労働者がカナダに入国	
1866	慶応2年 BC植民地がバンクーバー植民地を併合	
同年	日本政府 (江戸幕府) が最初の海外渡航許可発行	1868年グアム42名, ハワイ153名, 1869年米国40名出発
1867	慶応3年 カナダ自治領発足 (英国に対して内政的自治権獲得)	
1871	明治4年 BC植民地が連邦に加入	
1877	明治10年 最初の日本人移民の永野万蔵 (長崎県出身1855-1924) がBC州ニューウェストミンスターに上陸	万蔵は1884年に一旦日本に帰国し, 後にシアトル生活を経て1892年にビクトリアに移住。
1880	明治13年 カナダ太平洋鉄道の建設始まる	
1882	明治15年 中国人入国者数8,000人を超える (最高数)	主に鉄道建設に従事, 中国人排斥運動激化
1885	明治18年 中国人移民法制定: 中国人労働者一人につき50ドルの人頭税を雇用者に課す	カナダ初の移民締め出し政策。中国人の締め出しが始まる。1901年に100ドル, 1904年に500ドルに増額される。
同年	カナダ太平洋鉄道がBC州ポートムーディまで完成	バンクーバーまでの延長が決定される
同年	日本政府が関与する日本人のハワイ移住 (官約移民) 始まる	
1887	明治20年 カナダ太平洋鉄道完成 (バンクーバーが終着駅)	職を失った中国人労働者が他の産業に流入→「White Canada」「White BC」の声が高まる
同年	ロスベイベイ墓地で最初の日本人 (おねやまよしたろう26歳) 埋葬	
1888	明治21年 和歌山県三尾村からの移民始まる	主に漁業に従事: 日本からの本格的な移民の始まり
1889	明治22年 バンクーバーにカナダで最初の日本帝国領事館設置	
1891	明治24年 滋賀県からの移民始まる	主に森林伐採・製材所労働に従事
同年	広島県・福岡県からの移民始まる	主に炭坑労働に従事
1892	明治25年 永野万蔵がビクトリアにホテルと物産品店を開業	
1894	明治27年 日清戦争勃発 (~1895) 日英通商航海条約締結	
1897	明治30年 米国がハワイ (共和国) を併合して米国自治領とする	ハワイの日本人移民が大量に米国本土に移動し始める
1898	明治31年 この年以降, 各種東洋人排斥法案がBC州議会を通過し始めるが連邦政府は拒否	排斥対象が中国人から徐々に日本人にシフトする
1901	明治34年 日本政府がカナダ移住希望者への旅券発行停止 (日本政府による自主規制)	BC州での排日運動の高まりを考慮
1902	明治35年 第一次日英同盟発効	英連邦に属するカナダ政府は以後, 同盟に反する法律を制定できなくなり, 日本との関係維持を考慮せざるを得なくなる。
1906	明治39年 日露戦争において日本勝利	日本人の能力の高さを世界に印象づけた
同年	カナダ 新移民法制定	
同年	カナダが日英通商条約に加入	連邦政府はカナダ産品の日本への輸出増を期待するが, 日本人移民の多いBC州政府の不満は増加する。
同年	日本政府がカナダへの移民渡航制限を一時的に解除するが, 翌年には規制再開。	
1907	明治40年 米国政府がハワイ植民地からの日本人労働者の米国入国を禁止	低賃金を嫌うハワイの日本人移民がカナダに大量流入。日本人に対する脅威感増大。米国本土へ向かう者も多く含まれていたが, 排日感情を煽る手段に使われた。
同年	BC州選挙で「White Canada」を掲げる保守党が勝利	日本との関係を維持したい自由党主導の連邦政府と, 移民問題に悩むBC州政府 (保守党主導) の軋轢 (あつれき) 増大。
同年	9月7日バンクーバー暴動: 日本人街と中国人街が襲撃される (日本人側は反撃, 中国人側は反撃せず)	被害は軽微で損害賠償も受けたが, カナダ政府の日本人移民制限政策の導火線となる (日本人移民第1期の終わり)
同年	日加政府間でルミュー協定に合意	日本人移民の数量的制限の合意。1923年, 1928年に改訂され制限強まる。カナダ連邦政府が日本人移民を制限する方向に政策転換。後年の強制移動政策の原点。

YEAR	INCIDENCE	REMARKS
1910	明治43年 日本が韓国を併合して植民地化	
1911	明治44年 カナダ移民法改正	移民奨励策から移民制限策へと政策を方向転換
1913	大正2年 カナダが新日英通商航海条約に加入	排日運動が少し沈静化
1914	大正3年 第一次世界大戦 (1914 - 1918)	終戦後、西海岸地域で日本人排斥運動活発化 (戦争から戻ると白人労働者の職が日本人に奪われていた)
1918	大正7年 スペイン風邪	
1919	大正8年 BC州漁業条例改正	
1922	大正11年 バンクーバー島周辺・フレイザー川での日本人・日系人漁夫に対する漁業ライセンス削減始まる	以後、数次にわたり排斥が強化される
1923	大正12年 中国人排斥法成立 (中国人入国禁止) 東洋人の国有林での森林伐採を禁止	
1924	大正13年 米国が新移民法を制定	別名「排日移民法」といわれる
1926	昭和元年 カナダ外交自治権獲得 (英国からの独立)	
1928	昭和3年 ルミュー協定改定	以後、日本人移民流入数が激減
1928	昭和3年 大審院にて日本人に対する漁業ライセンス拒否の無効判決	
1929	昭和4年 世界恐慌	
1931	昭和6年 満州事変勃発	日系人への脅威と敵意が増大。但しカナダ政府は英国寄りで、満州における日本の立場を認め、中立を維持。
1937	昭和12年 盧溝橋 (ろこうきょう) 事件勃発 (日中戦争拡大)	中国における米英の権益を損なうものであるがゆえに、反日感情が激化
1939	昭和14年 第2次世界大戦勃発 イギリス参戦。カナダも枢軸国に宣戦布告	
1940	昭和15年 日本との開戦に備えて日系人の登録が行われる	
1941	昭和16年 12月7日:真珠湾攻撃 (太平洋戦争始まる)。カナダが日本に宣戦布告。 日本語新聞発行禁止, 日本人所有の漁船押収	ハワイでは日系人の強制抑留なし (ハワイの人口の1/3が日系人で全員を収容すると経済が成り立たなくなる)
同年	カナダ全土の日系人人口調査 (全土23,000人, BC22,000人)	カナダ国籍13,600, 日本国籍6,200, 二重国籍3,600
同年	12月:香港の連合国軍防衛隊 (カナダ軍) が日本軍に降伏	カナダ人捕虜の不適切な扱いについて現在でも批判あり
1942	昭和17年 1月31日:太平洋岸100マイル以内の防衛地域の日本国籍の成人男子に退去命令	
同年	2月 シンガポールの英軍部隊が日本国により壊滅される	
同年	2月:防衛地域内の日系人21,000人に対しキャンプ地への強制移動命令 (抑留政策)	
同年	日系人への忠誠心調査および忠誠拒否者の日本への強制送還が始まる (1万人強制送還計画)	戦後 (1947年) の中止までに4,000人が日本へ強制送還。忠誠を誓約した者はロッキー山脈東側への移住が条件に送還を逃れる。
同年	キャンプに収容された日系人をさらに東部へ移す拡散政策	「西海岸からロッキー山脈の間にはジャップはひとりも要らない」が主流的雰囲気
1945	昭和20年 第二次世界大戦終結	
1949	昭和24年 強制移動させられた日系人が西海岸の旧居住地へ戻ることが許可された。	旧住居・財産は政府により処分され戻る家はなかった。
1955	昭和30年 日本の高度経済成長の始まり (1973年まで)	世界における日本・日本人の地位が著しく高まる
1959	昭和34年 ハワイ植民地が米国50番目の州として連邦に加入	
1971	昭和46年 カナダ 多文化主義政策を策定	
1977	昭和52年 日系100年祭	日本人のカナダ移住100年記念の祭り。カナダ国籍を有する日系人に対する抑留政策の誤りを追求する運動が活発化。
1982	昭和57年 カナダ 権利および自由に関する憲章採択	
1988	昭和63年 9月22日リドレス合意	公式謝罪, 個人補償一人21,000ドル, 基金など日系社会に合計3,900万ドル支払い (抑留生活から46年後)
1991	平成3年 カナダ 多文化主義・市民権省設立	

歴史には節目があります。人口増による日系排斥という流れの中で大きな節目が1907年(明治40)年に訪れます。この年、米国がハワイ準州(注2)の日系移民の米国本土への移住を禁止しますが、その結果、低賃金・重労働に苦しむハワイの日系移民はカナダに流入するようになります。折しも「White Canada」をスローガンに掲げる保守党がBC州選挙で勝利したこともあり、BC州では日系移民などアジア人への排斥運動が拡大し、ついバンクーバーの日本人街と中国人街がカナダ人によって襲撃されます。実際には損害は軽微で賠償も受けましたが、この事件を契機としてカナダ政府は日系移民を本格的に締め出す政策に転換します。手始めがルミュー協定です。これは日系移民の数量的制限に関する日加政府間の合意で、その後数回の改訂を経て制限が強化されます(注3)。

日系移民に対するカナダ人の敵意は1931年(昭和6年)の満州事変、1937年(昭和12年)の廬溝橋(ろこうきょう)事件、1941年(昭和16年)の真珠湾攻撃などで決定的となりますが、その結果として1942年(昭和17年)にカナダ政府が行った日系移民強制移住・拡散政策はこのルミュー協定が原点であるとされています。ただ筆者は、社会体制の維持に都合が悪くなれば移民は排斥すればよいという考え方の原点は、ルミュー協定よりずっと前の、前述した1885年(明治18年)の中国人移民法にあるように思います。つまり、日本からの移民が本格化する前にカナダにはすでにそのような価値観があったのではないのでしょうか。

英国・米国の影響

さて、年表をご覧くださいとともひとつお気づきになる点があると思います。それは、日系移民のカナダ入国が認められるかどうか、入国した日系移民がカナダ社会に受け入れられるか否かという日系移民の処遇は、出身国である日本と受け入れ国であるカナダ両国の関係だけでなく、日本と英国、日本と米国という国際関係にも大きく影響されてきたという点です。

まずポジティブな面をみてみましょう。日本は英国との間に1894年(明治27年)に日英通商航海条約を結び、続いて1902年(明治35年)に日英同盟の締結に成功し、英国と友好関係を築きます。カナダは英連邦に属していますので、以後、カナダ政府は日英同盟に反する法律を制定できなくなります。日系移民の増大に対してカナダ政府は、前述のルミュー協定を日本政府に認めさせて日系移民数を制限しましたが、中国人に課した1885年(明治18年)の人頭税のような人種差別措置は日系移民には取りませんでした。これは、カナダ政府は英国と友好関係にある日本からの移民を差別的に制限する法律を制定できず、日本政府が合意・承認した協定にのっとって入国数を制限するという“紳士的な”な方法に拠らざるを得なかったからといわれています。

ネガティブな面ももちろんあります。戦前、約23万人の日本人がハワイに移住しましたが、低賃金・重労働という過酷な労働状況であったようです。1897年(明治30年)に米国がハワイを併合して自治領(準州)とすると日系移民も米国本土へ自由に移動できるようになり、結果として、大量の日系移民が高賃金が得られる米国本土に移住します。しかし、本土でも日系移民が増えすぎて排斥運動が高まり、米国政府は前述したように1907年に日系移民の米国本土への移住を禁じます。その結果、ハワイの日系移民が大量にカナダに流入することとなり、カナダ社会における排日・反日感情を刺激してしまい、バンクーバー暴動の一因ともなりました。

カナダ日系移民が排斥された要因には以上の移民人口の急増の他にいくつかありますが、それについては次回お話しすることにいたします。

注1: 実際には、中国人移民を排斥して日本人移民を受け入れ、次に日本人移民を排斥してフィリピン人移民を受け入れるというように、増えすぎて都合が悪くなった民族を排斥して別の民族を受け入れるという形を取りました。

- 注2: ハワイ王国は米国人によるクーデターを経て1894年(明治27年)にハワイ共和国となり、次いで1898年(明治31年)に米国により併合され準州(米国自治領)となりました。なお非公認ながらハワイへの日系移民は江戸時代末期よりありました。
- 注3: 当初のルミュー協定は移民数を年間400人に制限しましたが、移民の配偶者と子どもは制限対象ではなかったため、「写真婚」といわれる婚姻(見合いをせず写真だけで結婚を決め届けてしまう婚姻形態)により妻となった日本人女性のカナダ移住が盛んに行なわれ、結果として日系移民数の増大が抑えられなかったとのことです。

Copyright:

©2010 Japanese Canadian Community Organization of Victoria

All rights reserved. Reproduction of any part of the article in any form without our written consent will be infringement on our copyright.